

かめづか むかいだ
亀塚遺跡／向田遺跡(本発掘調査A/B)

所在地 安城市東町・桜井町地内
 (北緯34度55分5秒 東経137度5分53秒)

調査理由 中小河川改理事業(鹿乗川)

調査期間 令和2年1月～令和2年3月

調査面積 440m²

担当者 樋上 昇・鈴木恵介



調査地点(1/2.5万「安城・西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設局河川整備課知立建設事務所による中小河川改理事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて令和2年1月から令和2年3月にかけて実施した。調査対象地の現況は圃場整備を受けた水田であり、近現代の耕作土および床土を除去した検出面より遺構掘削を実施。調査面積は向田遺跡本発掘調査Bが178m²、亀塚遺跡本発掘調査Bが192m²、亀塚遺跡本発掘調査Aが70m²である。

立地と環境 向田遺跡・亀塚遺跡は隣接し、碧海台地の東縁部から沖積低地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部である。調査地は矢作川右岸の氾濫原平野に位置し、旧地形は入り組んだ河道が流れる後背湿地であった。

亀塚遺跡は昭和48年度以降、安城市教育委員会および愛知県埋蔵文化財センターによって調査が実施され、直近の調査は本調査区の南に隣接する愛知県埋蔵文化財センターが行った2016年度の調査となっている。安城市教育委員会が昭和52年度に実施した2次調査で出土した人面文土器はよく知られている。

向田遺跡は、平成12年度に安城市教育委員会によって実施された発掘調査によって存在が明らかとなり、同年度の愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査を経て、平成29年度に発掘調査が実施されている。

調査の概要 調査は亀塚遺跡本発掘調査Bより着手した。遺構検出面の標高は7.4mで中世の溝(001SD・002SD)、古墳時代前期に埋没したと考えられる河道(003NR)が検出された。001SD、002SD共に古墳時代前期の遺物を多く検出したが、わずかに須恵器甕破片や山茶碗破片を包含することから中世の溝とした。003NRは東西方向の河道で、検出面での幅が約16mである。底面の標高は6.1m。検出された遺物は、完形品を含む古墳時代前期の土器は、器種は壺、甕、高坏が判別できる。木質遺物は加工された建築部材や板材、丸材がある。金属製品では003NR北岸部分で検出された銅鏃2点がある。003NR北岸部に近接して検出された竪穴建物跡(100SI)からも銅鏃1点が出土している。

亀塚遺跡本発掘調査A 亀塚遺跡本発掘調査Aは計12カ所、70m²を設定した。TT1～TT4では基盤層が標高7.5m前後で検出され、溝や流路の縁辺部がTT1～TT3で検出された。

TT5～TT8では、TT5で柱痕を伴う柱穴2基、土坑1基、TT6、TT7では古墳時代から灰釉陶器や山茶碗破片を含む、厚さ0.2～0.4mの遺物包含層が検出された。これらは中世以降の掘削による再堆積と考えられる。TT8では遺構が標高7.4mで検出され、小土坑14基、溝3条を検出した。遺物包含層の下位やTT5、TT8の検出面以下は今後調査予定である。

向田遺跡本発掘調査B 向田遺跡本発掘調査Bは178m²の調査区を設定した。調査区北半部には基盤層そのものが存在せず、南端部では土坑2基等を検出した。検出面の標高は6.9mである。(鈴木恵介)



向田遺跡、亀塚遺跡遠景（手前が向田遺跡調査区）



003NR 北岸上層部遺物検出状況



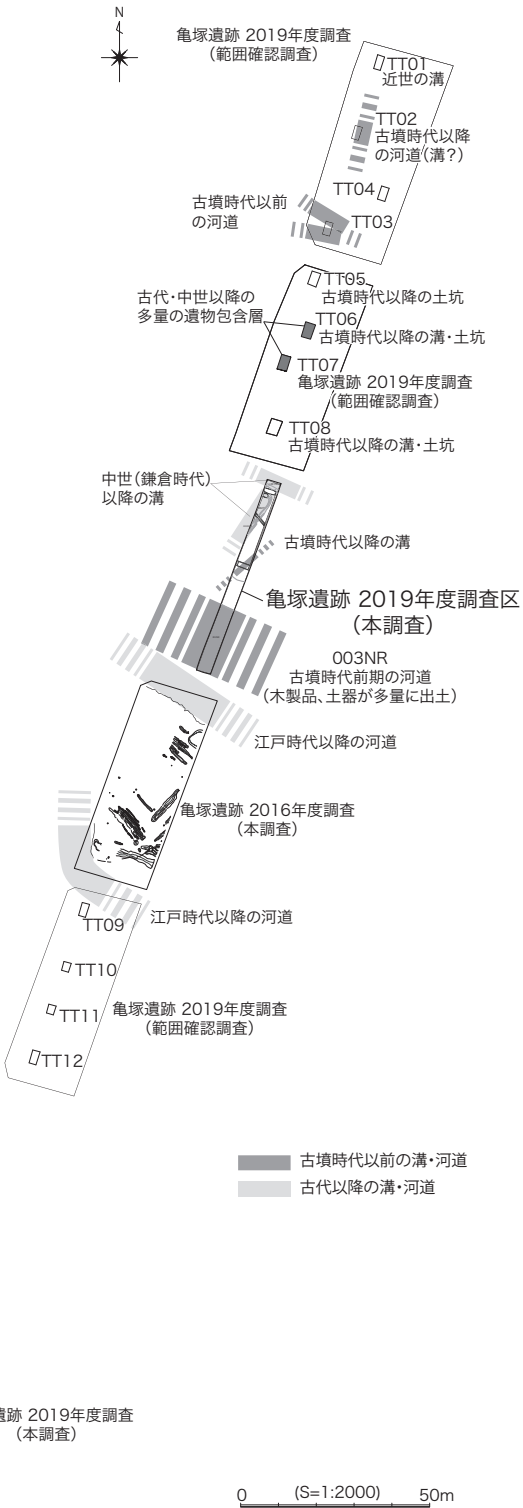
003NR 部材出土状況



003NR 壺（平底）出土状況



003NR 壺（丸底）出土状況



向田遺跡 亀塚遺跡2019年度調査区配置図 (S=1/2,000)